



タウン誌に連載した絵をまとめたポスター。

主宰する石垣島ハーブスクールは、暮らしの中にハーブを生かすさまざまな方法を教えるハーブコースと、薬膳コースがある。ハーブコースでは栽培、染色、料理、加工技術などハーブ全般について学べる。



「よく見ると、葉っぱの上に精油が見えるの!」と高西さん。植物画を描くなかで培われた鋭い観察力が、ハーブの栽培にも生かされている。

亡くなる。そして2年前、最愛の夫が突然お通夜の日、月明かり

言うくらいにめりこんで。絵を描いたら娘に会えるかもしれない、と心の中で娘と会話する気持ちで描いたの。最初は1枚描くの1ヵ月かかった。ルーペを使って観察し、その生態をも表現しようとする彼女の細密画は、自ら育て慈しんでいる人ならではの、静かな野性と生命力に満ちている。東京の植物画教室にも通ったが、課題用の切り花は描く気になれず、すぐに帰島。独学で勉強し、連載を6年続けた。

何回も失敗したが、ついにピパーチの苗木作りに成功。石垣島胡椒園の代表取締役として、ピパーチを使った料理を提案し、さまざまな島ハーブのジャムやオイル、ピネガリ、ソルトを開発、さらにはスープや化粧品など、ハーブ製品の加工と販売も始めている。

6年前にはハーブスクールを開校。200名以上が卒業した。栽培するハーブはオーガニック(有機JAS規格)の認証を受けている。「ここは有利なの。時季を見て種を蒔けば、島ハーブも西洋ハーブもわんさかできるの」と言うが、

のもとで、家の周りのマツリカ(ジャスミン)の花がいつせいに咲いた。月の満ち欠けに合わせて花は咲く。マツリカが、^{供花}花となった。「家族が亡くなって悲しい思いをしたけど、今はいろいろなことをやりたいの。何でもやってみたい。欲張りに、がむしやりに。今を大事に生きていきたい、と思うの」

八重山ならではのハーブを育てたい

北海道ではラベンダーに癒やされたけれど、八重山のハーブは? そう考えたとき浮かんだのは、かつて庭に咲いていた中国原産の在来種のパラ、トシシイメー(コウシンバラ)の栽培だった。そして、もうひとつが八重山でおなじみの香辛料、ピパーチ(ヒハツモドキ)の苗木作りである。